

池田高校 SSH 卒業生アンケート

高校19期生 Cさん

(聞き手 国語科 迫)

1 まず、あなたは今どのようなお仕事をされていますか。仕事の場合は、よろしければお立場もお教えください。

医療研究者

2 高校時代はどのような研究をされましたか。

高校時代はアリの生態の研究をしていた。高校1年生のときはソメイヨシノの樹上で活動するアリの生態を、高校2年生のときは日本南限のブナ林に生息するアリの生態を対象として、鹿児島市内各地の公園や北薩の紫尾山でひたすらアリの採集をして、環境による種構成の違いを解析していた。

3 研究活動の中で、最も印象深かったことは何ですか。

地道な採集を通して、小さなアリの大きな世界を垣間見ることができたこと。身近な昆虫であるアリですが、とげやくびれの位置、数などで細かく分類されており、実際に採集したアリの顕微鏡で観察しながら同定することで、普段の生活では知りえないアリの世界を知ることができた。また小さなアリですが生物量は非常に大きいというところも驚きだった。

4 そこで学んだことはどういうことだと考えますか。

一言で学んだことを説明するのは難しいが、SSH 関連の授業、課題研究、講演、研修、フィールドワーク、外部発表などの多くの学びの機会と経験が今の研究力の基盤になっていると思う。中学での理科自由研究も重要な機会だった。立案から実験、資料作成まで自らおこなった3つの研究で、計9つの賞をいただいたことは自信になったと思う。

5 SSH の学びにより、科学的な感性や好奇心、思考力は伸びたと思われますか。

在学中は意識していなかったが、SSH の授業や研修に興味をもって主体的に参加することで、自然と科学的な思考力が養われていたと感じている。

6 プレゼンテーションやわかりやすく話す力や表現力は付いたと思いますか。

先輩、後輩、同級生、他校の学生の研究発表や、様々な分野の著名人のご講演を数多く聞いたり、実際に校内外で発表したりする機会をいただいたことが今のプレゼンテーション能力につながっていると思う。

7 高校時代が普通の教科学習だけで終わったとしたら、どう違ったと思いますか。

学んだことの活用の可能性を考えながら学ぶ姿勢が身につけなかったのではないかと思います。

8 SSH の学びは、あなたの理系選択に影響しましたか。また、研究したことで学習意欲は高くなったと思いますか。

もともと理系志望ではあったが、SSH での学びは理系選択を確実なものにし、学習意欲を高めたと思う。

9 現在どのような生活を送っていますか。研究(仕事)はどんな様子ですか。

今の自分に役立っているところはどんなところと考えますか。

分子や細胞レベルの生物学、薬理学、栄養学を専門分野として、現在は iPS 細胞を神経系の細胞に分化させて、脳神経疾患や加齢でみられる神経細胞間のネットワークの障害とその修復についての基礎研究を進めている。

研究遂行、プレゼンテーション、文章作成など、あらゆる研究活動の場面において SSH での活動が役立っていると感じている。

10 今後の池田高校のSSHについてどう考えますか。

期待することなどを教えてほしい。

池田高校のSSHプログラムで科学研究活動に必要な様々な力を身に付けることができると思うが、現状に満足せず、より高い意識をもって、より高いレベルで活動に取り組んで、さらに発展させてほしい。